



3回表八学光星2死、この試合唯一の満塁機で渡部が左飛に倒れる。投手・櫻田、捕手・橋場

「打の光星」沈黙

仲井監督「対応力不足」

八学光星は最後まで、青森山田の櫻田から安打を放つことができなかった。主将砂子田は「『打の光星』といわれてきた分、本当に悔しい。今まで練習してきたことは何だったのかなと思つ」と声を震わせた。

県大会決勝で櫻田から計8安打を放った打線がこの日は沈黙。櫻田の緩急をつけた投球に苦戦し、凡打を連発。三回以外は全て三者凡退に抑えられた。

新チームが始動してからは打撃時の「対応力」を課題に挙げ、強化に励んだ。試合中はベンチ入りメンバー全員で、相手投手のカウントの取り方や癖などを分析し共有。部内のミーティングで

も、2ストライクに追い込まれてからの打席での粘り方について話し合ってきた。

この日もベンチ内で「緩急に対応していこう」と声をかけ合い続けた。だが「相手にうまく振られ、対応できなかった」と砂子田。仲井監督も「対応力がまだまだ足りない。実戦練習を通して磨いていく」と強調した。

決勝で無安打無得点を喫し、目標としていた今大会の優勝と、神宮大会出場を逃した。砂子田は「いま一度全国制覇を目標に掲げ、チーム全員で冬の練習に取り組んでいかなければならない」と決意を口にした。

（棟方好華）

岡本琉「気の弱さ出た」

○…八学光星の先発岡本琉は4回を投げ3失点。「立ち上がりも悪く、勝負強さもまだ足りなかった。自分の気の弱さが出てしまった」と肩を落とした。

試合前日（22日）の夜に仲井監督から先発を告げられ「無失点で抑える」とマウンドに立った。だが、初回から原田にスライダーをはじき返されるなど4回で計5本の長短打を許し、「強

気で攻めたが、相手の方が上だった」と悔やんだ。

試合中は、先発した県大会決勝で青森山田相手に7失点した記憶も脳裏によぎった。「後ろに仲間がいると分かっているでも『自分が抑えなきゃ』という気持ちでいっぱいになってしまった」

来春に向け「気の弱さを直し、球種全般の切れとコントロールも磨いていく」と岡本琉。「あとはセンバツに選ばれることを願うだけ」とうつむきながらつぶやいた。

第76回 秋季東北 高校野球

最終日

第76回秋季東北地区高校野球大会は最終日の23日、秋田市のこまちスタジアムで県勢同士の決勝を行い、青森山田（第1代表）が先発櫻田の無安打無得点（ノーヒットノーラン）の快投で八戸学院光星（第2代表）を3-0で破った。青森山田は8年ぶり2回目の優勝。11月15日に開幕する明治神宮大会の出場権を得るとともに、来春の選抜高校野球大会（センバツ）の出場を確実にした。櫻田は直球とカーブで相手打者を翻弄（ほんろう）し、的を絞らせなかった。攻撃では主砲原田が初回に2点適時二塁打を放つなど好機をものにした。八学光星は三回に満塁機があったが、生かせなかった。明治神宮大会は神宮球場で行われ、青森山田は11月17日午前11時から、初戦の準々決勝で星稜（北信越地区代表）と中国地区代表の勝者と激突する。

（本紙取材班）